

## 「平成18年度第3回行政改革推進市民懇話会」の概要

総務部総務課

- 1 開催日 平成18年9月1日(金)
- 2 会場 市役所第2・3委員会室
- 3 会議時間 午後4時開会、午後5時40分閉会
- 4 出席委員 20名
- 5 欠席委員 9名
- 6 市出席者 22名(堂故市長、中田助役、前辻収入役職務代理者・理事、國本総務部長、尾崎市民部長、瀬戸建設部長、荒屋産業部長、丸山市民病院事務局長、坂本教育次長、脇消防長、濱井企画広報室次長、永田参事・総務課長、金谷財務課長、高橋行政経営班長、七分主幹、山口、藤澤、森田、天坂、萩原、高林、杉本)
- 7 傍聴者 3名(議員3名)
- 8 協議案件

集中改革プランの基本的な方針(案)について

行財政健全化部会及び補助金等審査部会で協議された集中改革プランの基本的な方針(案)について、両部会長から報告があり、質疑応答や意見交換が行われた。

(提出資料)

- ・資料1 [集中改革プランの基本的な方針\(案\)について\(行財政健全化部会長報告\)](#)
- ・資料2 [改革後の財政収支見通しについて](#)
- ・資料3 [集中改革プランの基本的な方針\(案\)について\(補助金等審査部会長報告\)](#)

9 会議録（発言の要旨）

主な発言内容（要旨）	
会長	<p>委員各位には、暑い中、また何かとご多用の折、ご出席を頂き感謝申し上げます。</p> <p>今回で第3回目の全体会議となるが、第2回会議で決まったとおり、行財政健全化部会では、集中改革プランの基本的な方針（案）について、本日まで長時間にわたって幅広い分野についての審議をしていただいた。</p> <p>また、補助金等審査部会においても、191の公共施設の管理・運営について協議していただき、両部会の皆様には感謝申し上げます。</p> <p>本日は、審議の結果を各部会長から報告していただき、委員各位のご意見をお聞かせ願いたい。</p>
市長	<p>厳しい残暑が続く中、委員の皆様には、何かとご多用のところ、本日の会議にお集まり頂き感謝している。</p> <p>これまで、全体会議のみならず、2つの部会についても精力的に開催され、市政改革の方向性について、真剣にご討議を頂いたことに対し、深く感謝を申し上げます。</p> <p>本日の会議では、部会からの報告を基に、集中改革プランに対する意見の取りまとめが行われる予定と伺っており、今日が、一つの区切りになるものと受け止めている。</p> <p>市としては、市民懇話会の皆様方からのご提言を受け、関係機関とも調整を図り、目標の達成に向けて、各部局が取り組む具体的な改革内容を盛り込んだ計画案を取りまとめたいと思っている。</p> <p>なお、10月には市議会議員選挙が予定されていることから、改選後の市議会の意向等も踏まえ、12月を目途に、最終の「集中改革プラン」として取りまとめ、市民に公表したいと考えている。</p> <p>また、市民の皆様に対しては、市の広報やホームページ、あるいはケーブルテレビなどを通じて、行財政改革の必要性や、プランの取組内容をお伝えするほか、市長のまちかどトークなど、あらゆる機会を活用して、ご理解とご協力が頂けるよう努めていかなければならないと考えている。</p> <p>委員の皆様には、本日も率直なご意見やご提案をお聞かせ頂き、ご審議くださるよう、よろしくお願い申し上げます。</p>
会長	<p>本日の協議案件は、前回市から示された集中改革プランの基本的な方針案について、当市民懇話会としての意見をとりまとめるものである。</p> <p>それでは、各部会での審議の経過及び結果について、各部会長から報告をお願いしたい。</p> <p>まず、行財政健全化部会長からの報告をお願いします。</p>
行財政健全化部会長	（資料説明）「資料1」
行政経営班長	（資料説明）「資料2」
行財政健全化部会長	<p>非常に厳しい内容になっているが、この集中改革プランが承認された後には、いろいろな問題や課題が出てくることも予想される。市長を中心に職員が一丸となって個々の問題を解決し、平成21年度には収支均衡にもっていくという目標が達成されることを期待している。</p>
会長	<p>続いて、公共施設の見直しについて、補助金等審査部会長からの報告をお願いします。</p>
補助金等審査部会長	（資料説明）「資料3」
会長	<p>両部会各位には、ご多用中、熱心にご議論頂き、感謝申し上げます。</p>

	<p>それでは、ただ今の報告に対する質疑並びに意見交換に入りたい。</p>
委員	<p>「資料1」の5頁には、医療職を病院の経営状況に応じて補充していくという方針が書かれているが、6頁の医療職の定員適正化の職員数の見込みでは、もう既に人員増になっているのはなぜか。</p>
行財政健全化部会長	<p>現在は、欠員が生じている状態であるので、医師等の不足など、先が見えない状況でもあるが、なるべく欠員を埋めて元の状態にしていきたい。最終的には現在の定員に戻していきたいということである。</p>
委員	<p>この文章は、オブラートに包まれているように感じる。</p> <p>県内の市民病院で黒字が出ているところはどこなのか。民間病院では、黒字の病院の割合はどのくらいなのか。</p> <p>病院の設備投資をするにしても、行政がやると3割程度高くつくのではないか。それならば、第3セクター等がやったほうが良い。</p> <p>医師には技術が、看護師には笑顔が大切である。</p> <p>病院と同じく、市議会の改革も必要であると思うが、もっと英断が必要ではないか。</p> <p>なにも市が設置する市民病院という形でなければならないことはない。建物は市が用意して、市内の開業医に入ってもらうことも考えてはいかかが。</p> <p>院長が、累損を減らしてこられた努力は評価するが、これからは、そう簡単にはいかないのではないか。</p> <p>市民のために良い医師、良い看護師、良い設備を用意するにはどうしたらいいのかをしっかりと考えて、永久に残る病院を作してほしい。</p> <p>病院も事業としてやっていくには、競争相手を見つけて経営していくことも忘れてはならない。</p> <p>市民病院は、技術を持った病院と連携していくべきだ。技術が無いところに発展は無い。</p>
会長	<p>これから、皆様のご意見を踏まえて、具体的な実施計画を12月までにまとめしていくので、大いに発言していただきたい。</p>
委員	<p>「資料3」の公共施設の管理運営の見直しについては、大変重要なことであると思うので、どんどん進めていただきたい。</p> <p>ただし、191施設には191通りの施設の性格があるのではないかと考える。結果として、大きく3つの方向（再編・整理等見直し、民営化、民間委託等見直し）に見直すことになるという考え方が良いのではないか。</p> <p>最初から3つの方向を決めて、改革に切り込もうとすると、帯に短し襷に長しのように、入り口段階での問題が生じて、中途半端になってしまうのではないかと心配である。</p> <p>191通りの改革の入り方をして、それを3つにまとめ上げていくという方法が良いのではないかと思う。</p> <p>例えば、図書館の改革には、私たちよりも図書館をよく利用する人など、その面に関して知識のある人や経験のある人をグループ化して話を聞いてみることも必要ではないか。</p> <p>個々の施設を3つの改革の方向に当てはめようとする、見直しはなかなか困難である。3つはあくまでも結果であり、改革の入り込み方について少し考えていただきたい。</p>
委員	<p>この厳しい計画が絵に描いた餅にならないように、2つのお願いがある。</p> <p>1つ目は、氷見市単独でやっていくという基本的な方針のもと、これまで実施してきた行革には計画どおりに進んでいない部分もいくつかあるので、平成21年の収支均衡の実現に向けて不退転の決意でやっていただきたい。</p> <p>そして、今までは市の職員がリーダーシップをとってやってきたが、これからは市民の代表である市議会議員の皆さんに旗振り役をしっかりとやってい</p>

ただきたい。

2つ目は、計画の最終年度の平成21年度には、投資的経費が市税に対して2割にも満たない状況になってしまい市民サービスの低下が懸念されることから、少ない投資で大きな実績をあげることができるPFIの活用を研究していただきたい。5年後や10年後ではなく、早急に取り掛かっていただきたい。

市議会議員の皆さんも給料の6%をカットするというのではなく、市長が給料の10%をカットしているのだから、市民の代表でもあり、市の舵取り役の市議会議員がもっともっとリーダーシップを発揮していただきたいと思う。

10月には市議会議員の選挙もあるので、是非こうしたことを政策として打ち出していきたい。

委員

「資料3」には施設の民間委託や指定管理者制度のことが書かれているが、新しい知恵を出して公共施設の管理についての改革を進めていただきたいと思う。

最近の報道によると、寄付してもらったニチユーシーサイドクラブは、配湯事業もやっているようであるが、うまく機能していないようである。

獅子舞ミュージアムも地元の獅子舞の魅力をアピールした観光客を呼び込むための施設であると思うが、うまく機能していないように見受けられる。

これでは、民間が管理を引き受けて一儲けしてやろうという気持ちにはならないのではないか。

本来はこういった施設に指定管理者等の民間が入ってきて、雇用の面でも活気が出て、ビジネスチャンスにもつながるもの考える。

リサイクルプラザにしても、ビジネスチャンスのひとつであり、富山市では、24時間体制でペットボトルの再生工場を稼働させてやっているところもあると聞いた。

県外でも、公共施設の管理・運営に参入して成功している業者がかなりあるようである。

指定管理者というのは、今までの役所の仕事の半分を民間がやるという弱いイメージがあるので、もっと積極的に公共施設の民間委託を具体的に謳っていかなければならないと思う。

公共施設の管理・運営の見直しでたった1億4千万円の削減にしかならないという意見もあるかもしれないが、これが突破口になって、民間でやるとものすごく効果があるということが目に見えてくるのではないかと。

もっと楽しく積極的に民間委託・民営化を進めていただきたい。

委員

先ほどの市民病院の改革の話にもあったが、医療界は非常に厳しい状況に置かれている。

国は医療費削減に必死になっており、4月の改正でも医療費を3%削減した。年々そういった傾向になってくるだろう。診療科によっては、5%程度ダウンしているところもあるようである。

市民病院に来る医師については、近隣の病院をローテーションしているということであるので、他所で頑張るのに、氷見では頑張らないといったことは無いのではないかと。そういった意味では医師のレベルは他の病院と同じではないか。

医療は、医療機器やそれを支える看護師や検査技師など、医師を補助するパラメディカルの人たちの力も非常に大きいものであると考える。こういった診療科であろうと、チームワークを作って医療に携わることが大切である。医療の差が生じる大きな要因にチームワークの差があるのではないかと。

「資料3」に、寿養荘を将来的に廃止することを検討すると記載されているが、確かに利用者は、のべ人数で年々3~4千人減ってきているのではないかと。以前は4万人を超えていた年間利用者数が今では3万人そこそこに低下して

きている。

また、建物の老朽化に伴う水漏れが発生していることや、風呂のボイラーの交換等が必要になってきていることなど、将来的にはかなりの資本投入を要するので、閉鎖は避けられないものと思われる。

図書館の指定管理者制度導入については、図書館が貸し本屋になってしまうのではないかと懸念される。

図書館は、本を置いておくだけではなく、文化情報の相談窓口の機能も有しており、図書館を通じていろいろな情報を得ることができる。そのため、ある程度の規模や専門家も必要と考える。指定管理者制度の導入は適切な対応なのか疑問が残る。

補助金等審査部会長

部会が出した案がそのまま決定されるものではなく、いろいろな意見を出していただくためのたたき台である。

数多くの施設をなんとか少しずつ整理していくために、部会として協議した案であるので、必ずしもベストの案ではないと思う。皆さんの検討の材料としていただければと考えている。

協議の中では、市直営が必要な施設もあるはずであるという意見もあった。

企業経営のように損するからやめたというわけにはいかない。自治体が損をしてでも運営しなければならない施設もある。

大都会では、企業のメセナ活動で図書館や博物館、文化ホール等を運営する場合もあるが、氷見市ではそういうわけにはいかない。

なんとか施設を整理していかなければならないという思いで、このようなたたき台を出させていただいた。

先ほどの図書館についてのご意見については、私も同じ思いだ。

行財政健全化部会長

病院については、現在の状況は不明であるが、私が数年前調査したときには、国公立病院の97%程度が赤字であり、民間病院の6割程度が黒字であったと記憶している。

基本的に、国公立と民間では比較対象にはならない。まず、国公立は助成金をもらっているが民間はもらっていない。また、民間は減価償却をやっているが国公立ではやっていないところもあるなど、簡単には比較できないが、国公立の効率が非常に悪いことは間違いない。

この提案書には、自主・自立の市民病院の運営が明記されている。これは、氷見市の一般財源から市民病院に助成することにはもう限界があるということを確認に言っているものである。そうすると、今後、病院の中で発生する損失等は、如実に病院自体の赤字ということになって響いてくる。

そのことを病院の管理者や事務局等に理解していただけるかという大きな問題がある。また、病院の中の医師や看護師等の専門家がどのように自覚して、自分たちの仕事のやり方、また、仕事以前の人間としての個人的な心構え、生活の仕方も含めて、どういう風な関わり方をしていくかによって、大幅に変わってくるものと思う。そういった気持ちの持ち方などのシステムを含んで、病院自身が中心となって改革をやっていくことが必要である。

また、先ほど、PFIの導入についての意見があったが、部会においては、個々の具体的な話が出てこない議論することは難しいと考える。

だが、病院については、民営化やPFIの活用等を含めて、病院の自主・自立性や独立採算性について、厳しく自覚を促しながら、市から助成しないということを明確にしていくことが大切だ。

委員

図書館や博物館は無くしてはならないものであると考えるが、今までのソフトの質を維持しながら、外から来た人たちがお金を落とすとしていってくれるようなアミューズメント的なソフトを追加した民間委託ができれば良いと考える。

博物館は入館料のほかに、書物の販売の収入もあるが、積極的に売っている

わけではない。また、図書館は無料である。

行って楽しいというプラスアルファがあれば、行政改革ということだけではなく、街中の活性化にもつながる。

単なる行政サービスの委託だけにして欲しくない。

委員

この集中改革プランは、大変良くできていると思う。難しいことではあるが、絶対に実行してもらわなければならない。

現在の氷見市は環境が良く、美味しい食べ物が多いといった地域資源があるが、交通機関に恵まれていない。

そこそこの都市には、新幹線や高速道路、或いは空港が整備されている。

これからの氷見市は、既存の高岡北インターと来年開通する氷見インター、将来の輪島までの能越自動車道の完成、来年度での東海北陸自動車道の全線開通等により、いよいよ高速道路網の中に位置づけられることになる。

雇用の場の確保についても、既に日本ゼオンの系列会社の進出も決まっており、市長も雇用確保に一所懸命取り組んでおられるので、更なる企業誘致に期待したい。

また、もう少し時間がかかるが、北陸新幹線が開通すると、更に状況が変わってくる。

市長も東京都の石原知事のように自信を持って、市民が安心して付いていけるように頑張ってもらいたい。

会長

両部会長の報告を了承し、本日の会議で頂いた意見等も反映して、当市民懇話会の市長への提言をとりまとめることとする。

なお、提言書の内容等については、私と両部会長にご一任を頂き、取りまとめたものは委員各位に後日送付するというので、ご了承を頂きたい。

市長

行革、削減、カットなどという話は、皆様にとっても決してうれしくない話であるし、そういう嫌なお役目を担っていただき、会長、両部会長をはじめとする委員各位には、熱心な審議等による改革の方向付けをしていただいたことに対し感謝申し上げます。

この後は、会長を中心に取りまとめていただき、また、役所においてしっかりとした具体的な案を作らせていただきたい。

冒頭挨拶でも申し上げたが、10月には市議会議員選挙がある。選挙で選ばれた市民の代表である議員の皆様方のお考えをしっかりと取り入れて、改革の方向を示していきたい。

単独市政を進めることを決めたときも大変苦しい状況であった。58億円不足するという状況の中で、委員の皆様の後押しをいただき、市民の皆様や議会の叱咤激励をいただきながら今日までなんとか解消を図ることができた。

だが、これからの21億円の財源不足は、これまで相当切り詰めてきた中で解消していかなければならないので、厳しいことは前回の比ではないと感じているが、やりきりたいと考えている。

ただ、行革することが目的ではない。市民の皆様が安心して暮らしていただけるように、人づくりに財源を向けられるように、また、氷見らしい活力のあるまちづくりを進めていけるように、その土台づくりのための行革であるので、考え方を間違えないように、市政を進めていきたいと思っている。

その中でも、市民病院では、業績に応じたボーナス支給を労働組合にも納得いただいた。また、医師には活躍に応じた報酬を支払う仕組みとした。

市民の皆様に対しては、利用時間帯を使いやすいように、休日診療などについてもこれから議論していきたいと考えている。

市民の皆様へのニーズに堪え得る行政ができるように、これからもしっかりと頑張っていく所存である。

これで市民懇話会での議論は一段落であるが、皆様方のこれまでの市に対する叱咤激励等に心から感謝申し上げるとともに、今後ともよろしく願いしたい。

会長

委員各位には、長時間にわたっての熱心な議論に感謝申し上げます。

予定通り審議を終えることができた。

これから市のほうで具体的な実施計画を盛り込んで、12月を目途に集中改革プランを策定・公表するという段取りになっている。

当市民懇話会の意見を踏まえ、市の職員には危機感を持って対応していただき、この改革が間違いなく実施されるようにしていただきたい。

先ほど、投資的経費が大変少ないという話があったが、一番寂しい思いをしているのは市長であろうが、これは市民にとってもサービス低下となることは間違いない。

人は、貧しさを憂えず、等しからざるを憂うのである。市役所、市民、議会の三者がともに痛みを分かち合うことが一番大事であると考えている。

この改革が間違いなく実施されるよう、途中、情報の公開もしていただきながら、市民も一体となって頑張っていかなければならない。

これで最後の会議となるが、委員の皆さんには今後とも改革がうまくいっているかどうかご心配をいただければありがたいと思う。

以上をもって閉会とする。